



## 「高円寺フェス2025」で募集広報活動を実施

自衛隊東京地方協力本部高円寺募集案内所（所長 及川 2陸尉）は10月25日及び26日の2日間、JR高円寺駅周辺で開催された「高円寺フェス2025」において自衛官募集広報ブースを出展し、地域の皆様をはじめ、来場された方々への募集広報活動を実施した。

本イベントは、高円寺全域の店舗が参加するスタンブラリーやトークイベント、ワークショップなど様々な催しを同時開催するものである。

当日は、あいにくの雨模様となったものの、第1後方支援連隊より支援を受けた軽装甲機動車などの装備品展示に、来場者は普段間近では見ることができないため大きな関心を寄せていた。

また、広報ブースには2日間、約300名の方が訪れ、制服試着体験を楽しんだり、災害派遣活動紹介パネルの展示などを通じて、自衛隊の任務や活動内容への理解を深めていた。

来場された方からは「大変な任務お疲れ様です」「勇壮な装備の姿に心強さを感じる」といった力強い声援をいただくことができた。

高円寺募集案内所は、今後も地域の皆様との絆を大切に、各種イベントを通じて自衛隊への理解促進と募集広報活動に努めていく。



## 地域社会と連携した防災教育 ～板橋区内の区立中学校～

自衛隊東京地方協力本部北地域事務所（所長 西尾 3陸佐）は10月31日、板橋区内にある区立中学校において防災教育を実施した。対象は同校の2、3年生であり、「防災講話」及び「体験学習（土のう作り／搬送法）」を通じ、災害時に自ら考え行動する力を育むことを目的としたものであった。

今回の取り組みは、同校2年生が来年度、東北地方への修学旅行を予定していることを契機として実施されたものであり、東日本大震災の教訓を学ぶ「機会教育」として、防災への理解を深めたいとの学校側の要望を受けたものである。本教育では、既存の防災訓練に加え、より実践的な内容を取り入れ、首都直下地震や南海トラフ巨大地震などの発生が懸念される大規模災害に備え、中学生でも実践できる行動や日頃の備えを学ぶことを狙いとしたり。

講話では、地域事務所長が「災害はいつ起こるかかわからない。自分と周囲の命を守るために、日ごろから備える意識が大切」と呼びかけ、生徒たちは真剣な表情で耳を傾けていた。続く体験学習では、所員の指導のもと、実際に土のうを作りその重さや積み方を体感したほか、身近にある毛布や椅子を使用した搬送法を学び、仲間と声を掛け合いながら協力して負傷者を安全に運ぶ方法を身につけていた。

生徒からは「思ったより重たかった」「協力しないとうまく運べない」といった声が聞かれ、体験を通じて防災の重要性を実感している様子が見られた。教育の最後に生徒代表から「今回の体験を通じて、防災は人ごとではなく、自分たちの命を守るための行動だと実感した」との感想が述べられた。

北地域事務所では、今後も地域の学校や自治体と連携し、災害へ備える意識と行動力を次世代に育む防災教育を継続していく。

